

外国語教育メディア学会（LET）関西支部2015年度春季研究大会

基調講演

「英語到達度指標 CEFR-J を用いた統合的英語学習評価環境の整備」

講師 投野由紀夫先生

講師略歴

東京外国語大学総合国際学研究院（言語文化部門・言語研究系）教授。言語学博士（Ph.D.、ランカスター大学）。専門は、コーパス言語学、辞書学。『英語学習者コーパス活用ハンドブック』『CAN-DO作成・活用 英語到達度指標 CEFR-J ガイドブック』など、著書、論文多数。所属学会は英語コーパス学会（副会長）、アジア辞書学会（元会長）、岩崎研究会、全国英語教育学会等。LEXICOGRAPHY (Springer) 編集長、International Journal of Learner Corpus (John Benjamins), International Journal of Lexicography (OUP), Corpora (Edinburgh University Press) など複数の国際学術雑誌の編集委員を務める。

講演概要

CEFR-J は欧州言語共通参照枠（CEFR）を日本の英語教育用に特化して作成した汎用枠である。2012年 3月に version 1 がリリースされ、現在3000以上の学校、企業、団体、個人にダウンロードされて試用されている。CEFR-J は本家のCEFRにならってレベル別の can do descriptor の妥当性検証を経験的データをもとに行っており、現状でもっとも信頼性の高い CAN-DOリストの1つである。この講演では、CEFR-J の構築プロセスを解説し、かつ、CEFR-J 利用環境として整備しているさまざまな言語資源を紹介する。特に現在の科研で進行中のレベル別インベントリの整備に用いられているインプット&アウトプットコーパスからのレベル判別の言語特徴抽出の試み、CEFR-J と NHK英語データベースを融合させる試み、CEFR-J と教材のリンク、CEFR-J を用いた評価に資する新しいコーパスや言語テストなどの統合的英語学習 & 評価の環境整備についてビジョンを示したい。



外国語教育メディア学会（LET）関西支部2015年度春季研究大会 シンポジウム

「英語教育における音声指導と評価：スピーキングと発音」

パネリスト 小泉利恵先生、近藤悠介先生、斉藤一弥先生
モデレーター 菅井康祐先生

概要

本シンポジウムでは、英語教育における音声指導と評価をテーマに、最前線でご活躍の先生方をパネリストにお迎えし、音声指導や評価の現状、問題点、課題など意見交換の場を提供する。**小泉利恵先生**には、「ペア型会話テスト：授業内での実施と採点を目指して」と題し、生徒がペアを組んでロールプレイやディスカッションを行うペア型会話テスト（paired oral）の利点と難点を示しながら、授業内での評価法をご提案頂く。**近藤悠介先生**には、「発話自動採点システムの研究と開発」について、客観的な評価が難しい発話能力の自動採点システムの開発過程と今後解決すべき3つの問題点（評定者、音声認識技術、予想方式）について紹介して頂く。**斉藤一弥先生**には、「e-FonFが日本人学習者のスピーキング能力にもたらす影響について：音声・語彙・文法学の観点から」とのタイトルで、オンラインツールを用いたfocus-on-form instruction（e-FonF）を導入した指導について、音声・語彙・文法学の観点からの考察を頂く。

小泉 利恵 先生（順天堂大学）

順天堂大学医学部准教授（さくらキャンパス所属）。関心はスピーキング能力の評価、評価に関する知識・技能（assessment literacy）の普及。2014年より日本言語テスト学会事務局長。最近の編著書に、『英語4技能評価の理論と実践－観点別・CAN-DOから統合的技能の評価まで』（共編著、大修館書店、2015年）がある。

近藤 悠介 先生（早稲田大学）

早稲田大学グローバルエデュケーションセンター准教授。早稲田大学大学院教育学研究科博士後期課程教科教育学専攻修了。博士（教育学）。早稲田大学メディアネットワークセンター助手、立命館大学言語教育センター嘱託講師などを経て現職。専門は言語テスト。

斉藤 一弥 先生（早稲田大学）

早稲田大学商学学術院専任講師。2014年度早稲田大学リサーチアワード受賞。研究テーマは、（１）日本人英語学習者がグローバル社会の中で活躍するノンネイティブスピーカーとしてどのようなスピーキング能力を目指すべきかという目標設定、（２）そうした目標を達成するために、学習者のスピーキング能力を効果・効率的に向上させる教授法の開発。